

## 桜島の火山活動解説資料

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

本日、九州地方整備局の協力を得て行なった上空からの観測では、00時29分の噴火に伴う火砕流跡が、昭和火口から東側に1km程度まで達しているのを確認しました。

桜島では、過去の事例から見ると小規模な噴火であっても、火砕流（火口から約1km程度流下）が発生する可能性があります。また、昭和火口及び南岳火口から2km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。予報警報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴煙など表面現象の状況（図1）

昭和火口では、本日（8日）00時29分の爆発的噴火以降、噴火は発生していません。噴煙は乳白色で火口縁上概ね400mで推移しています。

#### ・ 火山ガスの状況（図2）

二氧化硫の放出量は、3月は一日あたり300～700トン前後で推移していましたが、4月4日には一日あたり2100トンと増加し、本日の観測では一日あたり1700トンと多い状態が続いています。

#### ・ 地震や微動の発生状況

火山性地震、火山性微動ともに少ない状態で経過しています。

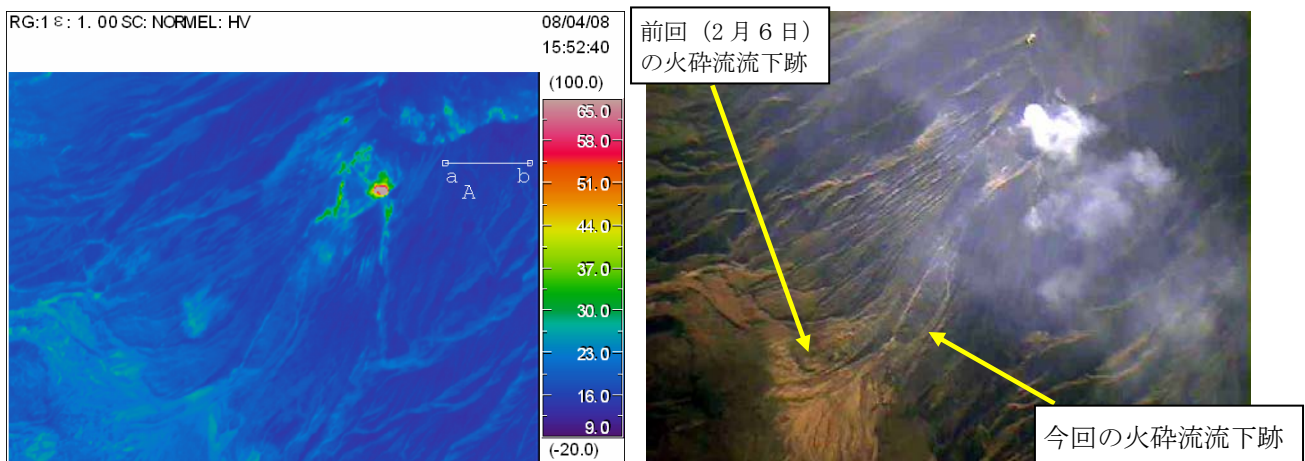


図1 桜島 九州地方整備局の協力により上空から撮影した熱画像(左)と可視画像(右)

・ 昭和火口から1km程度まで流下した火砕流跡を確認しました。

※ この資料は気象庁のほか、大隅河川国道事務所、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

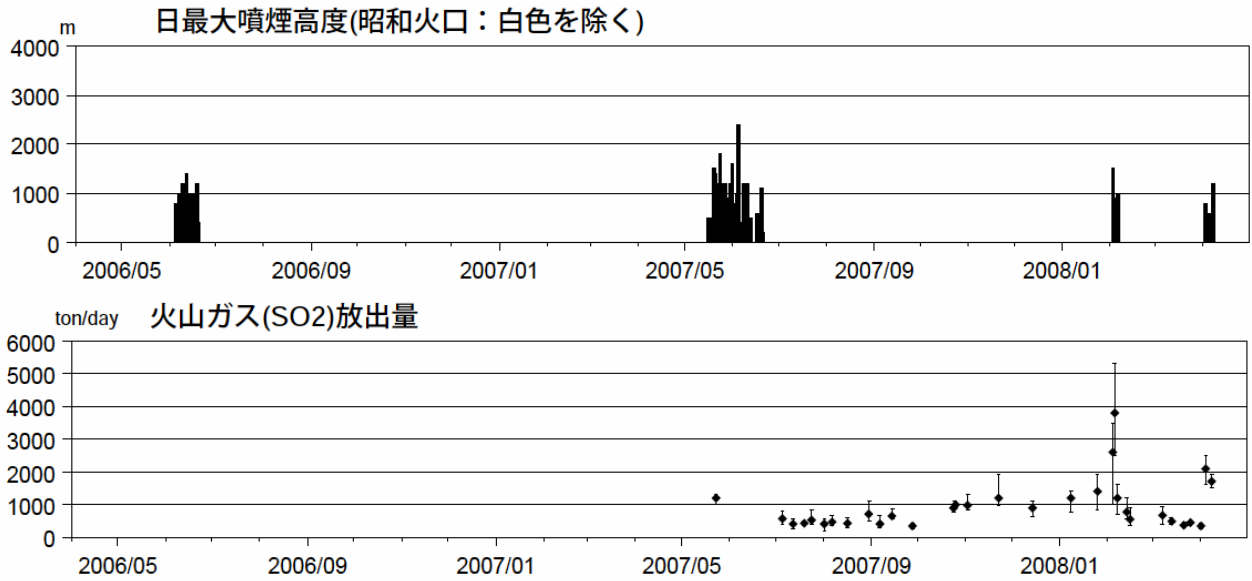


図2 桜島 最近2年間の昭和火口の噴煙と火山ガスの経過図(2006年4月～2008年4月8日)  
・ 二酸化硫黄の放出量は、3月は一日あたり300～700トン前後で推移していましたが、4月4日には一日あたり2100トンと増加し、本日(8日)の観測では一日あたり1700トンと多い状態が続いています。

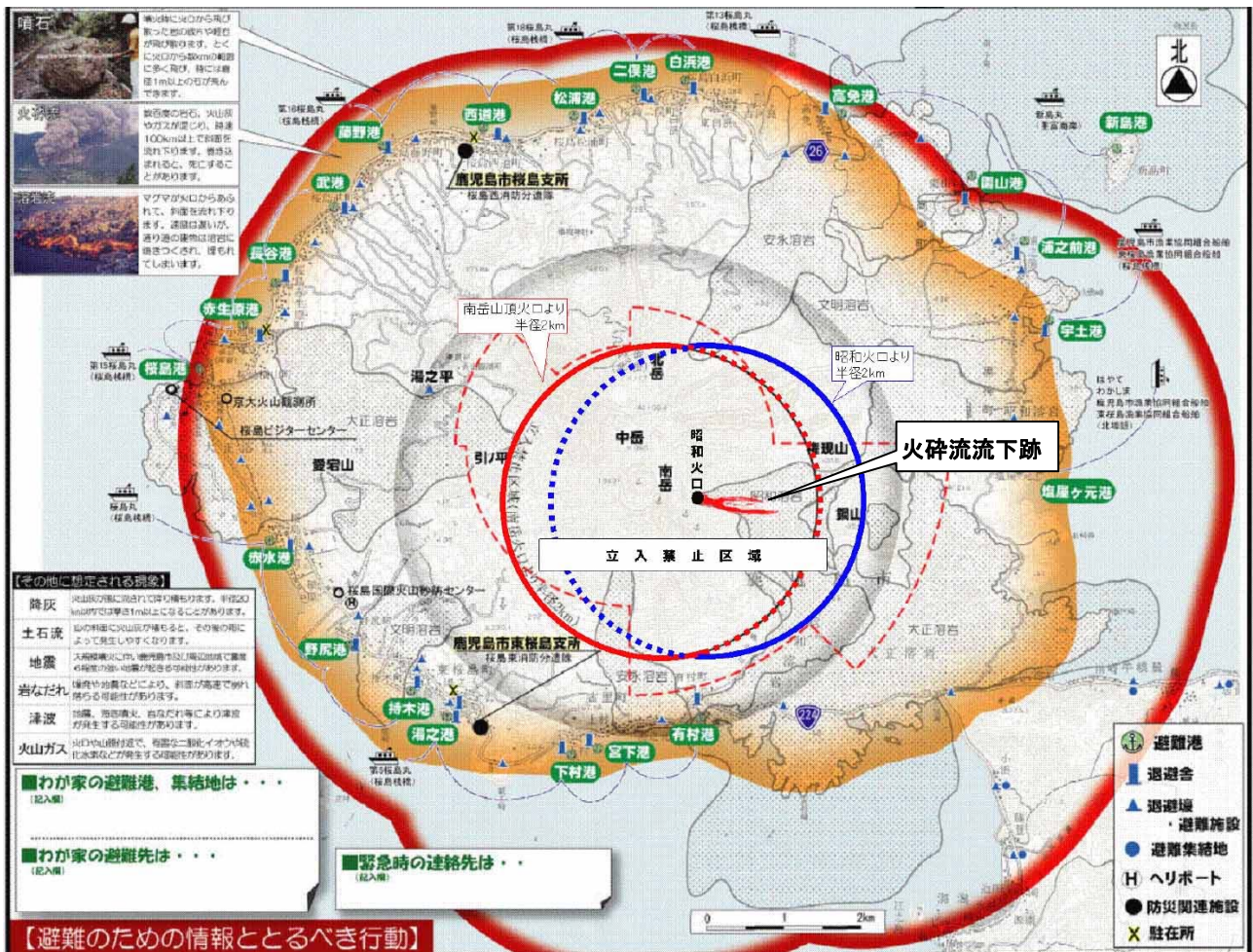


図3 桜島 8日00時29分の火砕流流下範囲  
鹿児島県地域防災計画より抜粋した鹿児島市桜島火山防災マップ島内版上に加筆して示しています。